

- サツマ苗 あまはずき すずほっくり登場
- おおまさり 来年は要予約を！
- 野菜苗 6月は夏植えキュウリとナス
- 生産事業部 シンシアがおかしい...
- 新聞編集部 毎月ギリギリの戦い
- 編集作業深夜のココスは環境〇

ナカツタス

2026年
6月

副店長プロ写真家への道

「ななつ星 in 九州」専属のプロ技術を伝承

ナカツタヤガーデンストリート副店長がプロフォトグラファーから技術を学んだ。店舗で日々目にする植物の美しさを来店できないお客様に届けたいとの思いからだ。学んだ技術を活かし、より良い一枚を目指して撮影を続けている。植物の表情や季節感を伝える写真づくりへの挑戦は続く。

いわゆる「映える写真」をいかに撮影するか。創業以来120年にわたり「間違いない商品をお客様に届ける」という理念を愚直に守り続けてきた同社にとってインフルエンサー的のウハウハは未知の分野だった。社内で議論を重ねても答えは見つからなかったという。模索の日々が数か月

光を理解することが良い写真への第一歩

家 玉垣亮氏（株式会社スイングバイ）。同氏は豪華寝台列車「ななつ星 in 九州」の専属フォトグラファーを務めた経験を持つ。多忙を極める玉垣氏による講義は、全3回にわたってオンラインで実施された。遠隔でも質の高い

指導を受けられる時代となり「福岡が近く感じられた」と担当者は言う。

講義で最も印象に残ったのは、「良い写真を撮りたい場合はまず光を理解すること」という

言葉だった。光の向きや強さを意識し適切に扱うことが写真の完成度を大きく左右するという。

現在は玉垣氏の教えを日々実践しながら撮影技術を磨いている。写真は公式Instagramで随時発信しており今後の投稿にも注目が集まりそうだ。



写真教室の様子（=令和7年5月、松本市）



写真教室前（左）と教室後（右）の写真

気温の上昇とともに生産現場も慌ただしさを増してきた。松本市内に定植した約1500株の馬鈴薯が次々と芽を出し、畑には初夏の訪れを感じさせる光景が広がっている。一方で頼んでもいない雑草も生長を始めた。

この時期重要となるのが雑草取りだ。江戸時代の農学者・宮崎安貞は著書「農業全書」の中で「上農は草を見ずして草をとり中農は草を見て草をとり下農は草を見て草をとり」と記している。雑草は目立つてからではもう遅い。しかし言うは易く行ふは難し。除草作業は想像以上の重労働で一つの畝の作業を終えた担当者は思わず「農家ってすげえ」と漏らした。秋の収穫へ向け注目が高まる。

ジャガイモ畑で実感 雑草との闘い本格化



安藤安貞の書斎（福岡市西区女原）

コンゲツのひんしゅ

「沖縄長れいし」



NHK連続テレビ小説「ちゅらさん」をきっかけに全国へ広まった沖縄料理。その代表的な野菜として知られるのが「ゴーヤ」だ。ナカツタヤでは同時期、地域の気候に最も適したゴーヤの品種選定に取り組んだ。ゴーヤには、実の色合いや形 大きさなどが異なる多様な品種がある。その中で選ばれたのが厳選育種された「純系沖縄長れいし」だった。以来20年以上にわたり同品種を販売し続けている。毎年の野菜苗販売に向け 苗づくりは地元生産にこだわっている。県外からの苗の取り寄せはあえて行っていないため、予定本数に達し次第、販売終了となる。年々厳しさを増す夏の暑さにも強く育つゴーヤ。ぜひ一度栽培に挑戦して欲しい。